

桜船会だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 52 号

発行日 2024.6.2

発行者 桜 船 会

発行責任者 木村允紀



陶芸【春秋柄梅華皮罅割れ角大皿と罅割れ丸大皿、窯窯焼成の壺と花入】

提供 小泉 登夫氏（会員）

近況報告：ZEB 関連技術実証棟 SUSTIE 近況報告

近況報告：ID 研の発信・対話の取組み

いきいきライフ：退職からもう 15 年

いきいきライフ：世に残るシンボルマーク作成

行事報告：秋の懇親会～鎌倉芸術館にて～

行事報告：貸切バスで巡る湘南平と花菜ガーデン散策

活動報告：ハイキング同好会報告

表紙写真：趣味の陶芸について

事務局：会員動向・編集後記

三菱電機株式会社 情報技術総合研究所

三菱電機株式会社 統合デザイン研究所

若林 正雄

尾浦 孝夫

編集班 皆川 良司

丸屋 完

富山 勝己

小泉 登夫

事務局・編集班

ZEB 関連技術実証棟 SUSTIE(サスティエ)は「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に向けた活動の一環として、今後の需要拡大が見込まれる ZEB に対応する省エネ技術の開発と実証実験を加速し、省エネ性に優れた快適な居住空間の実現に貢献する実証棟です。ZEB (net Zero Energy Building) とはビルの快適な室内環境を保ちながら、高断熱化・日射遮へい・自然エネルギー利用・高効率設備などによる省エネと、太陽光発電などによる創エネにより、年間で消費する一次エネルギー消費量がゼロ、あるいは概ねゼロとなる建築物をいいます。SUSTIE は 2020 年 10 月に竣工し、情報総研のスタッフ部門と研究部門の一部が入居、9 つある実証室で実際に執務を行いながら、様々な条件を変えて新しい技術の実証を行っています。今回は SUSTIE に関連するトピックスをいくつかご紹介します。



SUSTIE 外観

■省エネルギー性能を毎年更新

SUSTIE は「年間の創エネルギー量」が「年間の消費エネルギー量」を上回る、すなわち 100%以上の省エネルギーを達成する建物です。設計段階では 106%のエネルギー削減となっておりましたが、2020 年 10 月竣工後の初年度運用にて 115%のエネルギー削減を達成しました。続いて 2 年目は 116%、3 年目で 117%の削減を達成。快適性を犠牲にすることなく、様々な新しい技術を取り入れ、少しずつ省エネ性能の向上を継続して推進しております。もちろんこれで終わりではなく、新たな仮説・技術の実証を重ねながら、快適性を損なうことなく、さらなる省エネを推進していきます。

■省エネ大賞を受賞

SUSTIE は一般財団法人省エネルギーセンターが主催する 2023 年度 (令和 5 年度) 省エネ大賞<省エネ事例部門>において「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。省エネ大賞は、省エネルギーを推進している事業者および省エネルギー性に優れた製品を開発した事業者の活動を広く共有するとともに、優れた取り組みを行っている事業者を表彰するものです。これにより、省エネルギー意識の浸透、省エネルギー製品の普及促進、省エネルギー産業の発展および省エネルギー型社会の構築に寄与することを目的とするものです。SUSTIE の快適性を保ちながら優れた省エネを実現する取り組みが高く評価されました。今年 1 月 31 日には TOC 有明で受賞式が開催されました。また同日から東京ビッグサイトで開催された「ENEX2024 第 48 回地球環境とエネルギーの調和展」でも、当社が受賞した他の案件であるルームエアコン「霧ヶ峰 Z シリーズ」等と共に展示されました。



受賞式の様子

■社外来客受入が累計 8,000 名を突破

SUSTIE は ZEB 関連技術の実証棟ですが、同時に事業本部にとっては空調機や給湯器、エレベーター等の高性能設備機器、またそれらを制御する技術をアピール出来るショールームとしても機能しています。ビル本、リ本を中心とした事業本部の営業、支社が社外のようなお客様を招待しており、2021 年 3 月の受入開始以降、コロナウイルスによる緊急事態宣言も越えて順調に受入を継続。2024 年 3 月には累計 8,000 名を突破しました。今後も受入を継続し、当社の優れた製品・技術のアピールを推進していきます。

近年、経済や社会の変化が速く、予測困難で不確実性が高い時代になり、企業には柔軟性や創造性等の強化が必要になっています。そして、デザイン経営（イノベーションとブランディングに資するデザイン）が経産省で提唱されるなど、企業の経営資源としてデザインを活用する動きが活性化しています。

そのような環境下で、ID 研はプロダクトデザインやユーザーインタフェースデザインに加えて、サービスデザインや将来に向けた顧客価値の創出等、開発上流の業務や新事業創出の支援にも活動領域を広げ、新たな価値の創出を推進しています。

また、社外への発信・対話を強化しています。展示会やWEB、イベントなど多様な方法で推進しています(2023 年度は約 30 件)。ユーザーや関係者の声を聴き研究開発に活かすだけでなく、我々を知ってもらう事で、当社のイメージアップ等を図っています。今回はその事例を 2 つご紹介します。

1 つ目は、ekinote®です。これは、日本全国の駅と街の情報を一つのアプリに集約した地域振興プラットフォームです。これは、ID 研が起案・推進しているサービスで、駅を起点に地域の未来をデザインするという想いで取り組んでいます。是非皆さんもスマホアプリをダウンロードして使ってみてください。

<https://www.mitsubishielectric.co.jp/design/23/>



iPhone 用



Android 用

その中で、広島電鉄株式会社と実証実験を行いました。広島電鉄株式会社の駅周辺の街に関するコンテンツの発信、全国の ekinote®ユーザーへの広島地区観光の訴求、アンケート結果やアプリ運用データによる地域振興における有用性検証を行いました。

また、鎌倉リビングラボ DAY2022 という共創イベントにも出展し、鎌倉市観光協会とのご縁につな

がるなど、積極的にパートナーシップ構築を進めています。現在では 30 社以上の企業が参画しています。今後もパートナー企業とともに、継続的にアプリと地域を育てていきたいと考えています。

2 つ目は、AI SPEC です。これは、新たな社会課題「AI の倫理」と向き合うきっかけを提供し、AI とともにある未来をデザインするという取組みです。

この取組みでは、アートシンキングやスペキュラティブ・デザインのアプローチを活用しています。AI が活用された未来の世界を提示・問題提議し、新たな気づきを誘発するとともに、オープンな対話・ワークショップを通じて未来をデザインしています。

誰も見たことのない世界を表現するために選んだメディアはマンガで、見る側が「どんな世界なのか」と想像する余白を残すようにしました。

<https://www.mitsubishielectric.co.jp/design/14/>



取組みには、大きな反響がありました。その中で、三菱電機の「AI 倫理ポリシー」の策定・浸透を推進するチームとも連携することになり、社内 AI 倫理教育のプログラムのひとつに、本ワークショップを取り入れることになりました。

また、鎌倉リビングラボ、しごとてん 2023 in 鎌倉 への出展を行い、その後、鎌倉エフエムにも出演しました。これらを通じ、小中学生を初め多数の方に AI と暮らす未来を考える体験を提供しました。新たな気づきを与えながら議論を喚起し、そこから生まれてくる対話にこそ、より良い未来へのヒントが隠されていると考えています。これこそがデザインの役目の 1 つだと信じています。

退職してあつと言う間に 15 年が過ぎました。66 歳で三菱電機照明(株)を退職して今年 9 月で 81 歳。時の早さを感じる今日この頃です。1943 年 9 月戦時中に生まれ、よくもこれまで健康で生きてこられたものだと感じます。

私なりの日頃の健康へ留意することは、心(こころ)面と体(からだ)面のバランスの重視です。

心(こころ)面においては、気分転換(ストレス予防)のために事前に計画を練って 1 年に 3~4 回ほど旅に出かけます。計画は電車時刻、旅先の情報収集、特に食べ物(名物)等を調べ結構頭(脳トレ)を使い気分も盛り上がります。JR の『大人の休日倶楽部 suica』入会で電車の特典割引を利用しています。

体(からだ)面においては、とにかく毎日運動をしています。定番の自己流ストレッチ(朝、晩)は欠かしません。そして朝食前の定番コースの早朝ウォーキングです。体の内部循環が助長され体の動きが軽くなります。月に 1 度は天下の景勝地『箱根湖畔』を 1 時間かけてウォーキングします。特に箱根杉並木古道は遠い昔の風情を感じさせ好きな道です。

更に毎週土日は少年野球の指導で体を動かしています。少年たちに交じって一緒に野球の練習をすることは自分の足腰含め、心身共に刺激となり良い運動となります。1980 年から始め今年で指導者歴 44 年となります。全国夏の高校野球県予選大会では毎年、県下の横浜スタジアム、保土ヶ谷球場、平塚球場等に教え子の成長ぶりを見ながらの応援・観戦に出かけるのが楽しみです。

世の中少子化で全国的に各野球チームの少年の数も少なくなりがちですが、侍ジャパンがオリンピックで金メダル、WBC で優勝し、メジャーリーグで大谷翔平選手が特段の大活躍等で日本の野球熱も維持されています。今後も日本の野球が発展し続けることを願っている野球ファンの一人です。

又、タバコは 44 歳、酒は 68 歳で自分の意志により止めました。健康管理はかかりつけの総合病院で定期的に健康診断を受けています。時折不整脈が出ることがありますが、医師の処方を受けつつ日常生活を送ることができています。日頃の食生活も大事で野菜、肉、魚等をバランスよく食べています。これからも『いきいきライフ』で過ごして行きます。

右の写真は私自身と最近あちこち訪れた旅先です。



箱根杉並木古道(2022 年夏)



阪神甲子園球場(2023 年春の全国選抜高校野球)



姫路城(兵庫県姫路市 2023 年 3 月)



今宮戎神社(大阪市浪速区 2023 年 3 月)

日本の県、市、町、社会が無くなることのない限り、残っていくシンボルマーク制作に長年取り組んできました。公募があった団体に応募して「最優秀賞」を受賞した作品を以下にご紹介します。各団体のホームページ等で使われている状況をご覧ください。



① 横浜市栄区：区章 1991年1月6日



栄区の「栄」の文字を基に人と人が手を取り合う様子を表現。パソコンはまだ無く、葉書にポスターカラーで描いて応募しました。
新しい街づくりに取り組む区民の「人の和・ふれあう心・連帯意識」を象徴し、緑の多い栄区のグリーンがメインカラーです。

② 家電製品長期使用安全点検 1991年3月14日



家電製品のコードとプラグを安全点検＝愛情＝ハート＝躍進で表現しました。

③ 日本照明器具工業会：会章 1992年1月17日



Japan Lighting の「J」「L」を照明の光と影をモチーフに表現しました。

④ 横浜市：市民防災の日 1993年11月11日



市民と消防が手をつないでいるイメージを表現。

⑤ 千葉市花見川区：区章 2001年3月5日



花見川区の「花」をモチーフに花と緑の木の自然と未来へと躍進する姿を表現しました。

⑥ 長野県千曲市：市章 2001年2月6日



千曲市の美しい自然(太陽)山々、千曲川の明るい交流の場、未来への広がり(宇宙、星座)をイメージして千曲市の「千」を表現しました。

⑦ 福井県：港湾章 2004年3月9日



福井(Fukui)の「F」を係船柱(ポラード)、カモメで表現しました。

⑧ 徳島県阿波市：市章 2004年11月18日



阿波(AWA)の自然を「A」と、手をつなぐ市民を「W」で表現しました。

- 1)実施内容：桜船会 2023 年度秋の懇親会
- 2)実施日：2023 年 11 月 24 日（金）
13：00～15：00（受付開始 12：30）
- 3)会 場：鎌倉芸術館 3 階集会室
- 4)会 費：2,000 円 会員、ご家族とも
- 5)参加者：37 名（内ご家族 1 名）当日 1 名欠席
- 6)懇親会報告

秋の懇親会は会社の事情で例年のように情報総研内の食堂で実施することが出来ませんでした。そこで沢山の方に参加いただけるよう鎌倉芸術館にて開催することを計画しました。会場予約、ケータリングの手配、会場設営など初めてのことばかりで幹事は苦労の連続でした。そんな中でもやっと準備を整え、上記のようにようやく開催にこぎつけました。

会場には話がし易いように丸テーブルを設置しました。ケータリングでの料理はイタリアンで全 11 品、内 9 品をトレイに盛込んで予めテーブルに配置しました。飲物は生ビールを含めて 30 種類の飲み放題です。更に日本酒は有名地酒を飲んでいただきたいと考え別途「久保田・八海山」を用意しました。

受付後、会場内で集合写真を撮影し、懇意な仲間とそれぞれテーブルを囲んで馬場幹事の司会、木村会長の挨拶の後、矢田さんの乾杯でスタートしました。各テーブルでは、久しぶりの対面で話が盛り上がり飲物を取りに行く以外は話に熱中していました。

用意した地酒も早々に飲み終わりいい心持になり、予定通り 15 時にお開きとしました。幹事はその後会場の片付けを行って全日程を終了しました。



参加者全員で会場内での集合写真



矢田さんの乾杯で懇親会スタート



各テーブルの様子



懇親会 会場の全体風景



各テーブルの様子

1)実施内容：桜船会 2023 年度春の行事

貸切バスで巡る湘南平と花菜ガーデン散策

2)実施日：2024 年 3 月 26 日（火）11:00～15:00

3)会 費：1,000 円 会員、ご家族とも

5)参加者：30 名（内ご家族 8 名）

6)行事の感想報告

今迄の桜船会開催行事では、経験の無い強めの風と雨の降る中、長靴・合羽を着用し、旅行とは思われない雨対策万全の参加者総勢 30 名が定刻に集合しました。神奈中バスに乗車し湘南平に向います。途中で見た標高 180m 高麗山公園(湘南平)の中腹には、雲が懸かっている状況でした。沿道の花桃と木蓮の花がせめての慰めと感じられました。

湘南平では海側からの風雨が一段と増して強く、晴れていれば【神奈川の景勝 50 選】の一つに選ばれた富士山・丹沢山塊・湘南海岸・伊豆・三浦半島等一望に見渡せる立地ですが、展望の期待ゼロでした。20 分の見学時間の中で、風雨吹きすさぶ山頂のレストハウス展望台に向った勇者は、10 名程度でした。山頂の展望は、レストハウスの東方 200m に建つテレビ塔(【愛の南京錠】発生の地で有るが故に、電波障害の恐れ有りとの事で閉鎖、一週間後の 4 月 1 日に利用再開決定済)と、眼下のボンヤリ見えた大磯港の突堤のみでした。レストハウスの自販機で、500 円

で販売していた【愛の南京錠】を購入し取り付ける事は出来ませんでした。

定刻に平塚市寺田縄の【県立花菜ガーデン】に向って出発し、20 分後に到着、レストラン【キッチン Hana】で Hana 御膳と飲み放題のドリンクバーで昼食を取りました。各自ゆっくり余裕たっぷりであり余る時間を過ごしました。13:20 に入場券を貰い入園しました。本園は日比谷花壇大船フラワーセンターとほぼ同面積で、多種多彩な植物が植えてあります。本園のメインはバラの花であり、広い長い通路の両脇には、バラの大鉢が延々と設置してある他、専用の広いバラ園もあります。バラはようやく芽吹き始めた状態でした。相変わらず風雨吹きすさぶ園内を、傘を差しながらひと回りしましたが、ガイドブックの花カレンダーの 3 月開花予想に記載してある花々は、握った拳のように硬いままで、唯一花壇一面に咲き始めたのがチューリップで、他は花桃、早咲きの桜各数本が咲いていたのみでした。5 月が本園の見頃のガーデン設計である感想を持った次第です。大多数の方々は、めぐみの研究棟ゾーンの屋内で風雨を避け、資料・展示物を見ながら集合時間待ちで過ごしていた様子でした。

14:30 にバスに乗車し事故もなく、15:00 予定通り平塚駅に到着、解散しました。



花菜ガーデンでの集合写真



湘南平のテレビ塔



キッチンHana での昼食



人がいない花菜ガーデン

1. 大磯駅から湘南アルプス 2023-11-14(火)



大磯駅 10 時集合で、湘南平 181m に到着する関東ふれあいの道を 1 時間で登ると、白雪の富士山、江ノ島から相模湾と伊豆大島までが見渡せました。富士山をバックに 1 枚。

温かいもつ鍋とラーメン、熱燗と梅酒、コーヒーのランチ後、浅間山、高麗山と紅葉を見ながら縦走して高来神社に降り、参拝後大磯駅に戻りました。

2. 石垣山一夜城跡歴史公園 2024-1-22(月)



小田原城の西約 3km にある標高 241m の石垣山に、北条氏を攻めるために関白豊臣秀吉が築いた一夜城跡の歴史公園を訪ねました。早川駅から急坂の舗装された蜜柑山への農道を登ると小田原の街と相模湾が眼下に見え、1 時間ほどで到着し、石垣も残る二の丸や本丸跡などを巡りました。

昼は、野菜たっぷりのあごだし鶏鍋とうどん、熱燗と梅酒、コーヒーとデザートも楽しみました。



陶芸を始めたのは、55 歳の誕生日頃からです。23 年前は、陶芸ブームで陶芸教室に入るのも順番待ちで 6 ヶ月後に、やっと近くの教室に入れました。

最初の 3 ヶ月は陶器の作り方の基礎を教えて貰って、その後は個人の自由に作陶し、陶芸仲間と切磋琢磨しながら楽しくやって来ました。

初めの教室では陶芸用粘土と釉薬が多数ありその組合せで自由気儘に唯一無二の器作りを楽しく挑戦して来ました。その時期の作品が表紙の器です。

陶芸の魅力は、デザインして粘土と釉薬と模様を組合せて作陶して焼き上りで思った色がでるか？待っている時の楽しみです。更に完成品が計画通りにできた時の喜びが一番です。

表紙の左は電気窯で焼成した春秋柄梅華皮（しゅんじゅうかいらぎ）罅（ひび）割れ角大皿（52cm×20cm）と罅割れ丸大皿（径 36cm）です。右は窖窯（あながま：山の傾斜に穴を掘って半地下の窯）で焼成した壺（径 23cm×21cm）、花入大（径 14cm×26cm）と花入小（径 9cm×13cm）です。特に花入小は、真っ赤に焼けている作品を専用の鉄棒で窯の外に引き出し急冷した作品です。燃料の赤松の灰が釉薬となり黒くなったり白くなったり温度と灰により他の赤っぽいものと異なった景色が出ています。自分としては、もう二度と出来ない記念作品です。

今後も、個性ある名品（迷）を目指して楽しんで作って行きたいと思っています。

事務局

会員動向・編集後記

■会員動向（敬称略）（2023.10.1～2024.3.31）

- ・会員数 : 185 名（前回ご報告から 1 名減員）
- ・入会者 : 4 名 齋藤正人 狩野雅夫 齋藤紘平野進
- ・退会者 : 2 名 磯田陽次 田中準一
- ・物故会員 : 3 名 佐野敏夫 福田家樹 安達宏美
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■編集後記

第 52 号も無事に発刊できました。寄稿いただいた皆さまありがとうございました。

■桜船会 URL <http://www.ousenkai2013.com/>

編集責任者：皆川良司

印刷所：(株) さんこうどう

